☆医療的ケア児を停電時にサポート

ＮＨＫ岩手県のニュース　06 月 04 日　19 時 15 分

https://www3.nhk.or.jp/lnews/morioka/20190604/6040004369.html?fbclid=IwAR15lWJTqrR2aeZVOg7GENElpUUIq5ZTD9jR4HqWKkNjQvDkx8isxNP7ZQM

＞　人工呼吸器の使用など日常生活に医療的なケアが必要な子どもたちが、災害時に停電になっても医療機器が使えるよう電気を作り出す機能を備えた車を県内の企業が開発を進めていて、盛岡市在住の子どもと家族が課題の検証に協力することになりました。

北上市の医療用ガスの販売会社などが開発しているのは、ガソリンやガスを燃料にして電気を作るハイブリッド車と、ベッドや空調など自宅に近い環境が整備されたトレーラーが連なる形の災害支援車です。

ハイブリッド車から電気をトレーラーに送ることで、災害で停電していても、一般的な人工呼吸器であれば、１週間程度、動かせます。

実用化を目指す中、盛岡市在住で、脳に障害があるため人工呼吸器を使っている澤口芽依さん（６）と家族が実際にトレーラーに乗って一晩過ごし、課題の洗い出しに協力することになりました。

トレーラーの中では、澤口さんの家族がコンセントにつなぎ、人工呼吸器が稼働することを確認しました。

澤口さんのように人工呼吸器やたんの吸引などが必要な子どもたちは、県内では推計で１３０人いるとされています。

母親のるい子さんは、「東日本大震災と同じような規模の災害では、娘の命を維持するのは大変だ。個室のような環境で電気を使えるのはありがたい」と話していました。

この災害支援車は、すでに茨城県の自治体での導入が決まっていて、関係者は今後も、全国の自治体や患者の家族が集まる団体などに導入を呼びかけたいとしています。

開発を手がける医療用ガスを扱う会社の笠井健社長は、「災害の現場で、医療機器が必要な子どもたちが厳しい環境で避難生活を送るのを見てきた。そうした子どもたちが安心して避難できる場所を作りたい」と話していました。

…などと伝えています。

岩手日報

支援車両で無事一夜

盛岡の障害児と家族訓練

災害時避難に備え

岩手日報

災害時支援へ 実証実験

医療的ケア児 北良（北上）、避難先の安心確保

有効求人1・43倍

県内4月 72カ月連続1倍台

立憲 参院選比例 中村氏（医師免許）擁立へ

岩手日報　2019年（令和元年）6月5日（水曜日）

医療ケア児 守る備え

盛岡の沢口さん家族

特殊車両で避難訓練

停電時想定、改善点探る

現場から

支える手段 充実が必要

再検討 県に要望へ

西和賀　葛巻　九戸　住田

聖火リレールート外の5町村